

「低炭素社会づくり」に関する主な論点

1. 低炭素社会の基本理念

基本的理念として掲げるものはなにか。

例：簡素だが豊かな社会

長期大幅削減が前提、現状のトレンド上にはない

「意識・行動改革」、「技術革新」、「社会基盤整備」(心・技・体)の充実

2. 低炭素社会・日本モデルのイメージ

- (1) 社会資本(都市や交通のあり方)はどうか。
- (2) 暮らしや仕事の間(居住空間・業務空間)はどうか。
- (3) 産業やエネルギー供給のあり方はどうか。
- (4) 人々の消費選択はどうか。

以上のような各分野において、1.に掲げた「意識・行動」「技術」「社会基盤」(心・技・体)はそれぞれどのようになっているか。

3. 低炭素社会実現の手段・戦略

- (1) インセンティブや強制力の付与(制度的インフラの整備)のあり方をどう考えるか。
 - 例 規制的手法の活用をどう考えるか。
 - 経済的手法による炭素排出に対する明確な価格付けをどう考えるか。
 - 誘導的手法(コンテストや表彰など)の活用をどう考えるか。
- (2) ソフト面でのインフラの整備をどう考えるか。
 - 例 情報：温室効果ガス排出の「見える化」をどのように進めるか。
 - 人材：低炭素社会を推進する人材育成をどのように進めるか。
 - 資金：低炭素社会作りにいかにお金が流れるか。
- (3) 社会資本(物理的なインフラ)の整備のあり方をどう考えるか(これを通じて既存技術を大量導入)。
 - 例 都市をどのように整備するか。
 - 建築物をどのようにするか。
 - 交通インフラをどのようにするか。
 - 低炭素なエネルギー供給をどのように推進するか。
- (4) 上記(1)～(3)の3つのインフラ整備を通じて、どのように技術革新・イノベーション(個別要素技術の革新及び社会システムのような幅広い意味での革新)の推進を図るべきか。
- (5) 温暖化対策の観点から生態系の保全をいかに図っていくか。
 - 例 緩和(森林整備による吸収、バイオエネルギー) 適応(食糧の確保、自然資源の確保)

4. 世界への発信

- (1) 低炭素社会に関する情報集積/発信/国際共同研究の拠点のあり方をどう考えるか。
- (2) 日本モデル(日本の成功・失敗体験やその理由等も含む)をいかに分析し、共有していくか。